

様式 1.

RQR-***

ユーザ	* * * *
機種	* * * * *
プロジェクトNo.	* * * * * *

製品安全分科会	セーフティセツサ	部門長	G 長	担 当
***	***	***	***	***

リスクアセスメント実施表(1／5)

危険源の同定		モード(該当:○)			リスクアセスメント					対応する保護方策 (取消線のあるものは提案のみ)	リスクアセスメント					使用上の情報	関連規格
NO	危 険	危険域	生産	段取	保守	危険に さらされる 可能性	被害の ひどさ S	危険に さらされる 頻度 F	危険を 回避できる 可能性 P	総合査定 (危険性 レベル)	危険に さらされる 可能性	被害の ひどさ S	危険に さらされる 頻度 F	危険を 回避できる 可能性 P	総合査定 (危険性 レベル)		
1	機械的危険																
1.1	押しつぶしの危険	スライドとボルスタの間	○	○	○	有	S4	F1	P2	Ⅳ	インターロッキングガード＊ セーフティブロック＊	有	S2	F1	P2	Ⅱ	取扱説明書 作業教育
1.1	押しつぶしの危険	防護柵とフロアの間		○	○	有	S4	F1	P1	Ⅲ	先端部ゴムシートで被害度軽減 防護柵の落下防止	有	S2	F1	P1	Ⅱ	動作中にブザーで注 意喚起
1.1	押しつぶしの危険	MBとMBの間		○	○	有	S3	F1	P2	Ⅲ	衝突防止用光電管でMB間距離50 0mmに保つ バンパスイッチ＊	無					
1.2	せん断の危険	MBとアップライトの間 MBと建屋		○	○	有	S4	F1	P1	Ⅲ	バンパスイッチ＊ MB回りの安全柵を客先にリコメンド 客先に作業手順の安全方策をとること をリコメンド	無					走行中にブザーで注 意喚起 取扱説明書 作業教育
1.3	切傷または切断の危険	角部	○	○	○	有	S1	F2	P2	Ⅲ	面取りかアール加工する	無					
1.4	巻き込みの危険	モーター軸露出部 フライホイール	○	○	○	有	S4	F1	P2	Ⅳ	カバー	無					注意銘板
1.5	引き込みまたは捕捉の危険	無し															
1.6	衝突の危険	フィードバー	○	○	○	有 有	S4 S4	F1 F1	P2 P2	Ⅳ Ⅳ	インターロッキングガード＊ 防護柵窓のインタロック＊ モーターブレーキ＊	有 無	S2	F1	P1	Ⅱ	作業教育
1.6	衝突の危険	MB		○	○	有	S2	F1	P1	Ⅱ	バンパスイッチ	無					
1.7	突き刺しまたは突き通しの危険	無し															
1.8	こすれまたは擦りむきの危険	無し															
1.9	高圧流体の注入または噴出の危険	無し															

様式1の
記入例

＊:制御システムのリスクアセスメント(様式2)を実施する

注)このリスクアセスメント実施表はリスクが受容されるレベルの最終を記録すること。
受容レベルまで行かないものは受容レベルに行くまで何度も実施すること。